

美楽舎

B i G a K u S Y a
News letter

No. 348

会報 第 348 号 (令和 2 年 10 月発行)

東京都中央区銀座 1-13-4 大和銀座一ビル6F
K's Gallery 内

Tel:03-5159-0809 Fax:03-5579-9004

Mail:kgallery@eagle.ocn.ne.jp HP:http://bigakusya.com

第 372 回 (9 月) 例会

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、中止となりました。

某日月誌

ぼうじつげっし



○新コロの件は読売新聞記事で8月24日80万人、9月14日94万人、10月20日110万人とあり遂に百万人を越えた、年末には150万人の死者数となるかも知れない。1年後も現状と変わることはないだろう、菌が自然消滅しない限り続くだろう、ワクチン効果も左程期待出来ないと思っている、3年後なら期待できるだろう。効果があるのは手洗いです、出掛ける時は地下鉄利用が多いのですが、トイレでの手洗いは欠かせません。東西線からの中央線をよく利用しますが、液体石鹸を設置してないのが驚きです、何億円もかからない予算で出来ますから全国的に新規設置をして欲しいものです。

○10月某日:「式場隆三郎:脳室反射鏡」(10月11日~12月6日)練馬区立美へ、ゴッホ複製画の巡回展、山下清を世に紹介した、今を時めく草間彌生を見出した(その才能を認めた)、また二笑亭(からくり邸宅、やっぱり門仲にあった)の著作の件は知っていたが、今回初めて知っ

たのは晩年に病院を建てた(薔薇園があり)が火事となり犠牲者を出した件が『虚無への供物』(塔晶夫、中井英夫。高校生の時に借りて読んで、すぐに近所の古本屋の上棚にあり買った)に薔薇園繋がりで書かれていたことだ。ゴッホ複製画(写真大判プリント)の仕上がりは油彩の盛上がりも見えて技術的に感心した、このレベルなら実物ではなくても展覧巡回できる。厚く函入りの著作や資料が概ねなので、美術館で開催するには疑問が残った。図録は制作中で、ここではなくて新潟市美への注文となる。

○某日:「荒俣宏の大大マンガラクタ館」(10月16日~12月16日)千代田区立日比谷図書文化館へ、京都国際マンガMから東京に巡回されたのは嬉しい。「マンガ」と「ガラクタ」を組み合わせた造語、考えたのは勿論荒俣氏です。「漫画と人生」~「稀書自慢」の7つのコーナーがあり、段ボール箱に入れアクリル板の蓋をしての展示は貧乏臭くてよろしい。マンガ少年(荒俣)の先生は平田弘史(時代劇画)とは